



SOKA University



SOKA Women's College

SDGs Report 2022



Discover your potential

SOKA University

Message



創 価 大 学

SDGs 推進センター長

井 田 旬 一

創価大学は、開学以来、生命の尊厳に基づく平和・文化・教育を掲げる建学の精神のもと、地球社会の課題と真摯に向き合い、現実社会に価値を創造しゆく「世界市民」の育成に取り組んでまいりました。この理念のもと、2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)実現へのより積極的な貢献を目指し、2019年4月に「SDGs推進センター」を開設しました。創立60周年を展望する新たな中長期計画「Soka University Grand Design 2021-2030」の中でも4つの重点テーマの1つにSDGsを掲げ、全教職員、学生が一丸となって取り組みを進めております。

具体的には、2022年度から新たに、学生の優れた取り組みやアイデアを募集し、必要に応じて資金を一部補助する「創価大学SDGsグッドプラクティス制度」を創設し、学生がより実践的に活動を推進できるよう支援を開始しました。SDGs実務者と本学の学生・教職員との対話・ネットワーキングを行うことを目的とした会合も2回目を開催し、外部有識者との連携も強化されつつあります。また、2021年に国内で3番目の大学として「気候非常事態宣言」を発出し、2050年までのキャンパスのカーボンニュートラルを目指し、具体的な取り組みの検討を開始しました。2023年度からは、文理横断でSDGsに関する専門科目を学べる副専攻制度も開始します。これからも、教職員・学生の連携を強めつつ、持続可能な未来に向けての挑戦を続けていきます。

About us



創価大学 SDGs 推進センターは、学内外のSDGs達成へ貢献することを目的に、2019年4月に開設しました。

センター員は教職員及び学生の代表で構成され、SDGs推進活動に関する推進方策の企画・立案、SDGsに関する啓発活動、SDGsに関する広報・公表を中心に、関連部署と連携しながら取り組みを推進しています。

主な取り組み

- ・SDGs推進活動に関する推進方策の企画・立案
- ・SDGsに関する啓発活動
- ・SDGsに関する広報・公表

2021-2030

創価大学は、2021年に創立50周年を迎えるにあたり、新たな10か年の中長期計画として「Soka University Grand Design 2021-2030」を策定しました。

「世界市民教育」「SDGsの達成」「多様性あるキャンパスの構築」などをコンセプトとして「価値創造を実践する『世界市民』を育む大学」をテーマに掲げています。

名称

Soka University Grand Design 2021-2030

期間

2021年4月1日～2031年3月31日（10か年計画）



SDGsに関する主な取り組み

—SDGsの達成とともに、「誰も置き去りにしない」という地球社会の実現に取り組みます。

・世界市民教育の体系化の一環で、SDGs 指定科目から所定の単位を取得した場合には副専攻として認定します。

・「全学 SDGs プロジェクトの推進」、「SDGs 達成に貢献する人材育成とネットワーク構築」の他、国連等の諸機関との連携、地域や社会との連携を推進します。

・サステナブルなキャンパスを目指し、カーボンニュートラルを目指したエネルギー計画などを推進します。

Pick up News

「世界市民教育」をテーマに「価値創造×SDGs」Weekを実施しました

「Soka University Grand Design 2021-2030」の取り組みの柱の一つとして、SDGsの達成へ先導的な役割を担うため、大学・諸機関および研究者とのネットワーク形成等を通じた、平和社会の構築を目指した活動の推進に取り組んでいます。

2022年度の「価値創造×SDGs」シリーズイベントは、6月4日（土）から6月18日（土）まで開催し、国連環境計画(UNEP)アフリカ地域の気候変動プログラムコーディネーターによる基調講演等を行い、イベント全体を通して、参加者一人一人がSDGsについて考え、行動を起こすきっかけになりました。



#グローバルな連携
#地球的課題を考える
#価値創造

2023年度から副専攻制度「SDGs」を開始

2023年度より、所属する学部学科のカリキュラムを学ぶ主専攻に加えて、文理横断でSDGsに関する専門科目を学べる副専攻制度を開始します。

副専攻制度は、「幅広い学び」を保証するため、所属する学部学科以外の分野（学部）から体系的かつ深く専門領域を学べる制度です。例えば、経済学部の学生が経済学部で設置する専門科目を学ぶかわら、SDGs副専攻の科目を学び、その上で認定要件を満たしていれば、「主専攻：経済学」「副専攻：SDGs」として成績証明書及び卒業証明書に記載されます。



#新制度
#文理問わず取得可

「SDGs達成に向けた実践者と学生・教員の対話・ネットワーキング会合」を開催

2022年12月11日（日）、本学キャンパスに、環境、気候変動、人権などの分野でSDGs達成に向けて取り組む実践者9名を招き、第2回「SDGs達成に向けた実践者と学生・教員の対話・ネットワーキング会合」を開催しました。

本企画は、本学学生のSDGsに関する活動や研究に対して、学外の実践者からフィードバックをいただくなど分野を超えた対話を行い、人的ネットワークを広げるとともに研究や活動の充実に繋げることを目的に実施しました。



#SDGsの分野で活躍する
実践者からのフィード
バック

#人的ネットワーク構築

【高校1・2年生対象】 「国際協力につながる大学での学びとは？」を開催

2022年7月31日（日）、8月21日（日）に、国際協力の分野で活躍する本学卒業生を講師に招き、「国際協力につながる大学での学びとは？」とのテーマのもと、オープンキャンパス特別イベントを開催しました。

本イベントは、国際協力に興味がある高校1・2年生を対象に、国際協力に関連する仕事で働くためには、大学でどのような学びを深めていけば良いのか（通称“推し学”）、グループワークを通して体験する事前申込制のプログラムです。



#推し学

#推し職

#大学での学びが深まる

SOKA university

SDGs Good practice

SDGsグッドプラクティス：

「SDGs」の達成を目指して、貢献度の高い取り組み（タイプA）や、実現可能性の高いアイデア（タイプB）を称え、助成することを目的に、本年度より新たに開始した制度です。

入賞したグループには賞状と副賞が贈られます。

また、タイプBの「SDGs達成に資する実現可能性の高いアイデア」として表彰されたグループには**助成金が支給**されます。

Awards ceremony

表彰式では、賞状と記念品の授与に続き、入賞した各グループの学生代表が挨拶しました。

最後にSDGs推進センター長より、社会課題を的確に捉え、その解決に取り組む学生の提案を称えました。



入賞グループ

●タイプA

最優秀賞：地球に優しいアイテムの販売を通して海洋ゴミ削減を目指す

優秀賞：ふくのきもちプロジェクト

努力賞：『ピリカ』を活用したゴミ拾い活動についての発表

●タイプB

最優秀賞：創価大学におけるファーストジェネレーション支援

入賞グループ紹介

タイプA 最優秀賞

地球に優しいアイテムの販売を通して海洋ゴミ削減を目指す



大東良明さん（経営学部4年）、荻野拓未さん（経営学部4年）、桑原翔太さん（国際教養学部4年）、井戸秀将さん（教育学部4年）、兼岡杏至さん（国際教養学部4年）

Ranchuは海洋ゴミの削減に貢献するアイテムの開発・販売を行っています。Z世代のメンバー合計100人が参加した3回のクリーンアップ活動の実施や、約二週間に渡るフィリピンでの現地調査と保育園への文具提供など、寄付活動も行っています。Ranchuは「地球社会の生命の尊厳のために」これからも挑戦し続けます。

＼受賞コメント／

第1回SDGsグッドプラクティス 最優秀賞を受賞したことを、心から嬉しく思います。ご支援をいただいた皆様のおかげです。詳細は公式Instagramからご覧ください！
@ranchu_official



タイプB 最優秀賞

創価大学におけるファーストジェネレーション支援



村瀬侑水さん（国際教養学部2年）、鈴木未来さん（看護学部2年）、三木綾華さん（国際教養学部2年）、岩間夏美さん（法学部2年）

ファーストジェネレーションとは、家族の中で初めて大学に進学する学生を指します。彼らは「大学についての隠れた常識」が欠如し大学適応に困難を抱えやすいです。私たちのグループではファーストジェネレーションに関する情報伝達、共同体の形成、そして研究活動を通して創価大学に持続可能なサポート体制を整える契機とします。

＼受賞コメント／

ファーストジェネレーションの課題が大学で取り組むべき問題であると認知された結果の受賞であると感じました。嬉しく思います。今後も、多くの方へファーストジェネレーションについて、知っていただけるように、活動したいと思います。



SUN&SDGs企画

2022年度の取り組みとして、本学広報誌「SUN」では、創価大学と創価女子短期大学の「OO & SDGs」をテーマに掲げ、SDGsの取り組みを紹介する企画を実施しました。

年間合計4回、「研究」「インターンシップ」「クラブ活動」「授業」のテーマより、さまざまな分野でSDGs達成に向けた取り組みを紹介しました。

主な掲載内容

SUN114号：理工学部丸田晋策ゼミ
「廃材となる米粉を活用して、脱プラスチックを推進」

SUN115号：インターンシップ
「社会での注目度の高まりとともに、年々増えるSDGs企業への就職活動」

SUN116号：クラブ活動
「使命感と好奇心を胸にSDGsの目標達成に挑む、学生たち」

SUN117号：授業
「“副専攻”で描く、可能性のミライ」

SUNは以下の号数をクリックするか、QRコードよりお読みいただけます。

[SUN114号](#)



[SUN115号](#)



[SUN116号](#)



[SUN117号](#)



SDGs アンケート

本学では、SDGsに関する認知・関心・行動、および本学のSDGsへの取り組みの認知・意見に関する全7項目10の質問を学生に実施しています。

【調査期間】

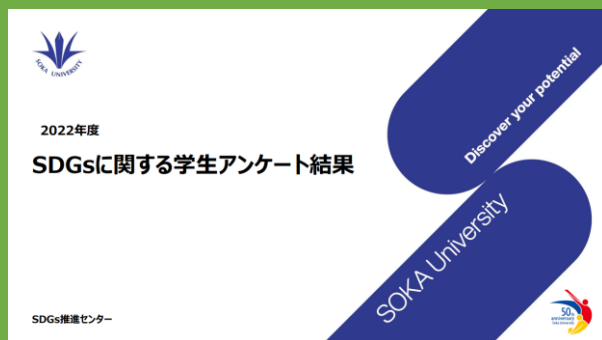
2022年11月5日（土）～ 11月25日（金）

【調査対象】

調査期間において、創価大学に在学中の全学生

【回答数】 2972名

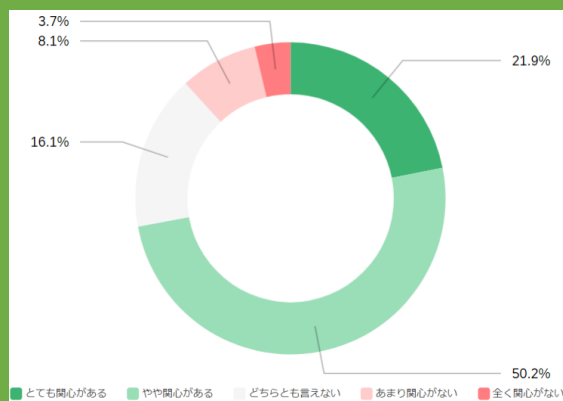
【アンケート方法】 Web方式



＼ 結果発表 Summary /

Q. SDGsについて、どの程度関心がありますか？

72.1% の学生が SDGs に関心を寄せていることがわかりました。



Q.あなたはSDGsのどのゴールに関心がありますか。

以下の項目への関心が高いことがわかりました。

GOAL1(貧困 をなくそう),
GOAL4(質の高い 教育をみんなに),
GOAL5(ジェンダー平等を実現しよう),
GOAL10(人や国の不平等をなくそう)への関心度が高い。

アンケートの結果は[こちら](#)をクリックするか、右記QRコードよりご確認いただけます。



Contents

各SDGでの具体的な取り組み事例



S D G 1	P.11	SDG10	P.20
S D G 2	P.12	SDG11	P.21
S D G 3	P.13	SDG12	P.22
S D G 4	P.14	SDG13	P.23
S D G 5	P.15	SDG14	P.24
S D G 6	P.16	SDG15	P.25
S D G 7	P.17	SDG16	P.26
S D G 8	P.18	SDG17	P.27
S D G 9	P.19			

SDG

貧困をなくそう

1 貧困をなくそう



01

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

授業紹介「Development Economics」 国際教養学部 内海 友子 准教授



Point

- ・ 貧困問題を多角的に学ぶ
- ・ ディスカッションを通じて世界をより深く理解



本授業では、開発途上国が抱える課題について、教育、健康、労働、移住、ジェンダー、紛争など幅広く学びます。世界の事例をもとに、問題点と原因を考察し、どのような政策が効果的なのか、皆でディスカッションを行う時間を多くとり、多角的に考える力を育てています。また、貧困問題を考える際、データから見えるものだけではなく、その先にいる人々まで想いを馳せられる想像力も大切です。留学生も多く、それぞれの国での経験を共有し合うことで、世界の諸問題を身近に捉えられるようになり、課題解決に貢献したいとの思いを一層深めたとの声が多くありました。

学生に食料無償提供



Point

- ・ 生活に必要な食料を提供
- ・ 物価高騰の影響を受ける学生の支援



2022年11月25日（金）本学キャンパスで、ひとり暮らしの学生や寮生、留学生ら約500人に、お米や食品、野菜、さつまいも、果物、カップラーメン、水等の食料品を無償で提供しました。4回目となる今回は、コロナ禍によるアルバイト時間の減少とともに、円安やウクライナ情勢の影響等による物価上昇で、食費の負担が増えている学生への支援を目的に実施しました。

SDG 02

飢餓をゼロに

飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

2 飢餓を
ゼロに



授業紹介「国際機構論」
法学部 中山 雅司 教授



Point

- ・ 飢餓のない世界を築く
- ・ 貧困のない世界を築く



国連をはじめ国際機構は、すべての人が平和で豊かで人間らしく生きられる世界を目指して生まれました。なかでも、食糧を得ることは人間が生きていくうえで最も重要で最低限の権利です。

しかし、いまだ世界で8億2,800万人が飢餓に直面しているとの国連報告書（2022年版）が公表されました。このような現状に対し、国連食糧農業機関（FAO）、国連児童基金（UNICEF）、国連世界食糧計画（WFP）、世界保健機関（WHO）をはじめ、多くの国際機関が食糧の確保と飢餓の背景にある貧困や紛争、社会構造の改善のために活動しています。

国際機構論では、国際機構の歴史、組織、機能、意思決定等の理解をふまえ、地球的課題の解決における国際機構の役割と課題について学び、国連職員をはじめ人間の尊厳に立ったグローバルリーダーを育成していきます。

SDG 03

すべての人に 健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

3 すべての人に
健康と福祉を



「大学における赤ちゃんふれあい事業」を実施



Point

- ・ 健康に関する情報を提供し健康管理能力を強化



「いいお産の日」である11月3日（木）、本学と八王子市の協力のもと、若い世代の子育て意識向上を目的として、創価大学において東京都助産師会による「大学における赤ちゃんふれあい事業」が実施されました。この事業は、「まちづくり八王子フィールドワーク」という授業において本学学生が八王子市に提案した企画が実現したものです。助産師会から2名（小井戸様・月野様）、八王子市から1名（小野様）、法学部教員2名（和足・土井）が参加し、23名の学生が受講しました。

赤ちゃんふれあい事業」の実施内容は、①「妊婦体験ジャケット」と「赤ちゃん人形」を使用した体験授業、②助産師による「いのちの授業」、③本学卒業生の母親とその赤ちゃんをつないだ「オンライン対話」というものでした。

助産師会の小井戸様からは「学生が熱心に参加してくれてやりがいがあった」とのコメントをいただきました。また、八王子市の小野様からは「市としても若者が参加する機会を提供できて喜ばしい」とのコメントがありました。受講した学生（法学部・2年）は「赤ちゃん人形を抱っこしてみて、生まれたばかりの赤ちゃんは首がすわっていないことなど、新たに気づくことができました」と感想を述べています。



SDG

04

質の高い教育を みんなに

すべての人々への、包摂的かつ
公正な質の高い教育を確保し、
生涯学習の機会を促進する

4 質の高い教育を
みんなに



「レフュジー家族の絆」 の上映会を開催



Point

- ・ 全ての人に平和について学ぶ機会を提供



「UNHCR WILL2LIVE Cinemaパートナーズ」に参加している本学では「UNHCR WILL2LIVE ムーブメント 2022」の開催にあわせて、2022年10月9日（日）と28日（金）に映画「レフュジー家族の絆」を対面とオンラインのハイブリッドで上映し、学内外より約250名が参加しました。国連UNHCR協会、ユナイテッドピープル株式会社主催の本映画祭は、映画を通して難民への理解を広げることを目的に開催しています。本学も学校パートナーズとして参加し、国連が定める平和運動を推進する本学の学生団体「ASPIRE SOKA」との共催で開催しました。

第48回夏季大学講座を実施



Point

- ・ 社会に高等教育を体験できる機会を提供



2022年8月27日（土）、28日（日）に本学キャンパスで「第48回夏季大学講座」を開講し、3年ぶりの対面講座となった今回は、2日間36講座に約3500名の方が全国各地から参加しました。

1973年に開講した本講座は、大学の教育・研究成果を市民の皆様へ還元し、広く学習の機会を提供するため、毎年夏に実施しています。

SDG 05

ジェンダー平等を 実現しよう

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

5 ジェンダー平等を
実現しよう



ダイバーシティ・インクルージョン 推進センター主催の講演会を開催



Point

- ・ダイバーシティを尊重し、ジェンダーの平等を促進する啓発活動

ダイバーシティ・インクルージョン推進センター主催の「体験的ダイバーシティ論～真の多様性を問う～」と題した講演会が、2022年6月23日（木）にオンラインで開催され、学内外より多くの方が参加しました。昭和女子大学理事長顧問でトライウォールグループ取締役会長兼CEOを務める鈴木雄二氏が、これまでのご自身の体験を通じて得た多様性の考え方、日本を多様化させる様々な取り組みを紹介していただきました。

創価女子短期大学の学生が立案した 「働く女性のウェルネス向上事業」が 東京都予算案に計上



Point

- ・働く女性の健康に関する普及啓発について研究



創価女子短期大学の青野ゼミでは、東京都に対して4つの事業提案を行い、都民投票において得票第2位で事業化対象候補として選定されていた「働く女性のウェルネス向上」の提案が、東京都の令和5（2023）年度事業として予算案に計上されました。同短期大学の学生（国際ビジネス学科2年 中野菜摘さん、森本美里さん）は、ゼミの活動の中で、女性のエンパワーメントの一環として、SDGsで掲げられた社会課題を自分事にするために、SDGsに関連する諸問題（働く女性の健康に関する普及啓発）について研究調査を進めてきました。その上で、今回、本制度を利用した事業提案に取り組みました。

SDG 06

安全な水とトイレ を世界中に

すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

6 安全な水とトイレ
を世界中に



授業紹介「国際保健学」 佐々木 諭 教授



Point

- ・ 疾病予防
- ・ 安全な水/衛生的なトイレ
- ・ プロジェクトを立案

アジアやアフリカの途上国では、安全な水へアクセスができないことや衛生的なトイレが普及していないことにより、毎年、多くの子どもたちが下痢症の病気により亡くなっています。国際保健学の授業では、下痢症疾患を予防するための安全な水と衛生的なトイレの重要性を学び、プロジェクト立案のグループワークを通して、どのように安全な水と衛生的なトイレを普及できるかを考察します。2023年度は、アフリカのエチオピアより招へいた客員教員による講義をとおして、現地の健康水準や衛生状況、そして健康改善のための取り組みを学びます。

授業紹介「生態環境工学」 理工学部 戸田 龍樹 教授



Point

- ・ 有機性廃棄物の循環利用
- ・ エネルギー/栄養の再利用
- ・ 循環型社会

「生態環境工学」は人間と自然生態系との共存を目指す学問分野です。産業革命以降の無計画な人間活動が、自然環境に大きな負荷をかけていることはご存じのことでしょう。21世紀はまさしく、この生態系の修復に時間と労力を割き、人間が自然環境と共存する術を考えなくてはなりません。

授業では、生態系から人間社会が受けるさまざまなサービスを理解し、持続可能な資源利用について考えます。生態系の生物群集を高度利用し、積極的に排水や廃棄物を浄化するとともに、エネルギーや栄養を回収・利用することのできる“環境技術”について、その原理と利用方法を教授し、いかに、循環型社会を再構築していくかについて議論します。

SDG

07

エネルギーをみんなに そしてクリーンに

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



授業紹介「光学」
理工学部 西山 道子 准教授



Point

- ・ 持続可能なエネルギー
- ・ 光の性質

光が波として振る舞う時に生じる、波の重ね合わせによる干渉、光が当たった壁の向こう側にも光が回り込む回折に特に焦点を当てて、現在の産業機器、IT機器の基盤である半導体、高集積回路の加工ができる理由について、数式も用いてそれらの現象を解き明かします。また、光ファイバによって世界中のインターネット通信網が実現したように、光を用いて長距離離れたところにも情報を伝送することができます。それを妨げる要因となる、光の散乱、吸収の性質についても学び、また太陽電池のエネルギー効率を高める反射防止膜の光学的仕様の条件についても学びます。

脱炭素化に向けて、コンサルテーション会合を開催



Point

- ・ 環境に配慮したエネルギー使用について考える



「大学の脱炭素化に向けて、皆で語り合おう」と題し、創価大学の脱炭素化、エネルギー利用・今後の計画に関するコンサルテーション会合（経済学部掛川ゼミ主催、SDGs推進センター後援）が、2022年6月29日（水）に学内で開催されました。

学生、教員、職員の約50名が参加し、熱心な意見交換が行われました。参加者からは次のような声が寄せられました。

「学生、教員、職員という立場を超えて、皆で大学の脱炭素化に向けて意見交換できたのは、楽しく有意義でした。また開催してほしいです。」

SDG 08

働きがいも 経済成長も

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

8 働きがいも
経済成長も



「女性が輝く未来を拓く」 ワークショップを開催



Point

- ・働きがいのある仕事に就くための支援

2022年12月20日の放課後に、創価女子短期大学の開学40周年に向けた取り組み「輝く女性育成推進」と「SDGs推進」の合同企画として、「女性（あなた）が輝く未来を拓く」ワークショップを開催しました。

ワークショップでは、この1年間の総括として、取り組みに参加してきた学生が、取り組み内容や学んだこと、これからの決意をプレゼンテーションしました。発表内容は次の通りです。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| (1) 輝く女性育成推進の取り組み2022 | (2) SDGs推進の取り組み2022 |
| ーサーラ・ワイダー博士に学ぶ | ーSDGsワークショップ |
| ーワンガリ・マータイ博士に学ぶ | ・柿の木プロジェクト |
| | ・クーポン調査団 |
| | ・SDGs活動の広報 |

最後に水元短大学長が、学生のみなさんが主体となって学び、活動する中で、皆さんの輝く未来を拓く土台を作ってもらいたいと、語りました。

【ワークショップに参加した学生の声】

○それぞれの推進企画で取り組んできた内容をお互いに知れて良かったです。発表を聴いてとても感動しました。

○発表を通して、短大に来た意味を、短大で学んでいる使命を改めて見つめ直すことができました。これから先、どんなことがあっても負けずに立ち向かい、平和を築くことのできる女性リーダーへと成長していきたいと思えます。

SDG 09

産業と技術革新の 基盤をつくろう

強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



理工学部の丸田ゼミが バイオプラスチック製品を展示



Point

- ・ 環境に配慮した新たな技術開発



本学理工学部・丸田晋策ゼミが、「たま未来メッセ」で開催された「八王子ものづくりEXPO」において、産学連携事業で開発した八王子産の米粉を利用したバイオプラスチック製品を展示しました。

八王子産米の吟醸酒“高尾の天狗”を造る過程で発生する副産物の米粉を活用した、米率51%バイオマスプラスチックのクリップを作りました。

「大学コンソーシアム八王子」 ポスターデザインコンテスト 最優秀賞を受賞



Point

- ・ 産官学連携の推進を通して、産業のさらなる促進を目指す



本学法学部生が、「第14回大学コンソーシアム八王子学生発表会」の周知用ポスターデザインコンテストにて、最優秀賞を受賞しました。

デザインには、産官学連携や市民の目線に立ち、チームで新たな可能性を探るなかで、成長できたことや多様な考え方を受入れていくことの大事さなどを表現しています。

SDG

人や国の不平等 をなくそう

10 人や国の不平等
をなくそう

10

各国内及び各国間の不平等を
是正する



「大学コンソーシアム八王子」 八王子市長へ直接提案



Point

- あらゆる経済状況の人
も能力強化できる社会
を考える



「第14回大学コンソーシアム八王子学生発表会の『八王子市長へ直接提案部門』」
で、法学部の中山雅司ゼミのチーム「TSUNAGU」が最優秀賞（第1位）に輝きました。

「あなたのみちとヤングケアラー～ヤングケアラーの子どもが幸せと思えるまちづくり～」とのテーマで、行政内に相談先を設置すること等について提案しました。

本学少年野球教室を開催



Point

- すべての人が能力強化
できる機会を提供



2022年12月3日（土）、本学硬式野球部のワールドグラウンドにて3年ぶりに「創価大学少年野球教室」が開催され、本学硬式野球部員約60名と八王子市内の少年野球チームの児童約140名が参加しました。
この野球教室は、八王子市内の少年野球チームを対象に、本学の地域貢献の一環として2012年から開催し、本年で8回目を迎えました。

SDG

11

住み続けられる まちづくりを

包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

11 住み続けられる
まちづくりを



文学部生が桑の日に 地域イベントを開催



Point

- ・まちおこしを通して
周辺地域や地元住民
との良好な繋がりを促進



桑の日（9月8日）に文学部生が桑の葉の食文化を広める地域イベントを開催しました。地域振興と市民の健康増進を図り、さらには八王子の大地を守る桑畑の持続可能性を高めることを目指すイベントです。

なお、同プロジェクトは、大学コンソーシアム八王子が費用等を助成する「学生企画事業補助金事業」に採択された活動です。

エチオピアで持続可能な循環型社会の構築を目指す国際共同研究



Point

- ・災害による被害を抑制し、経済的損失の削減に貢献



近年の人口増加に伴う栄養塩の流入や外来種の移入により、エチオピアのタナ湖で水草（ホテイアオイ）が過剰繁茂して環境汚染や経済的損失を引き起こしています。それらの水草をリモートセンシング技術等のICTを駆使して適切に管理・回収し、回収したバイオマスから有価物を生産するプロセスを研究開発することで、環境保全と経済成長を両立させる現代版アフリカ里湖（さとうみ）循環型社会の構築を目指しています。

SDG

つくる責任
つかう責任

12 つくる責任
つかう責任

12

持続可能な生産消費形態を確保する



廃棄になる新聞や雑誌を使って アップサイクルグッズを作成

12 つくる責任
つかう責任



Point

- ・ 廃棄物の発生防止に努め、再生利用に貢献



2022年8月から館内に設置された企画コーナー「UPCYCLE LIBRARY」。中央図書館では、廃棄になる新聞や雑誌をエコバッグやブックカバー、パスケースなどに再生するアップサイクルに取り組んでいます。利用者からは「愛用しています」「作り方を知りたい!」などの声をいただいています。

経営学部の野村ゼミが大学祭で 不要衣類の回収を実施

12 つくる責任
つかう責任



Point

- ・ 資源の再生利用を実現し、廃棄物の発生を削減



経営学部の野村佐智代ゼミでは、2022年10月9日から10日に開催された創大祭において、不要になった衣類（Tシャツ・スウェット）のリサイクル用回収ボックスを設置し、約50着の不要衣類を回収しました。

また、展示などを通して来場者にファッション産業におけるSDGs推進の重要性を呼びかけました。

SDG 13

気候変動に 具体的な対策を

気候変動及びその影響を軽減
するための緊急対策を講じる

13 気候変動に
具体的な対策を



「全学総合防災訓練」



Point

- ・ 自然災害に対するレジリエンス及び適応能力の強化



隔年で開催している「全学総合防災訓練」を、2022年10月20日（木）に実施し、キャンパス内の学生と教職員が参加しました。

災害発生時の初動対応の訓練を目的に、感染対策を講じながら行いました。

終了後には、集まった学生・教職員に非常食とパン・ジュースを配布しました。

授業紹介「国際地域経営論」 経営学部 吉元 浩二 教授



Point

- ・ グローバル化の理解
- ・ 世界の相互依存関係
- ・ 人間の自由・平和・人権

国際地域経営論は、海外市場を理解するという点においては、国際経営論と同じです。異なる点は、単純に経済的な視点や経営学的な収益側面から分析した内容ではないということです。海外市場を(1)グローバル化、(2)異文化リテラシー、(3)海外市場での倫理行動の重要性、(4)人間開発指数等の側面から理解することで、海外市場を理解することは収益のみならず、社会的利益の拡大のためにも必要な内容であることを学生に強調しています。学生が上記4点を理解することで、グローバル社会の中でダイバーシティと社会的利益を重要視する社会人となることを目指しています。

SDG

海の豊かさを守ろう

14 海の豊かさを守ろう



14

持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

授業紹介「エネルギー科学基礎」
教育学部 桑原ビクター伸一 教授



Point

- ・ 海洋の役割を学ぶ
- ・ 海の豊かさを守る
- ・ 物質の循環を理解



この授業では、地球を構成する地圏・大気圏・水圏・生物圏の4つの環境領域に基づいて、地球の環境と生態系について学びます。

また、太陽光を起源とするエネルギーが、各領域で物質をどのように循環させているかを理解することができます。

特に、海洋（水圏）に注目し、その重要性を議論するとともに、海洋環境を保護するために必要な取り組みについて考えます。

海洋は、私たちが必要とする酸素の50%を生成し、全二酸化炭素排出量の25%を吸収し、過剰な熱の90%を捕捉します。

持続可能な社会の実現には、「海の豊かさを守ること」が不可欠であることを皆で共有し、最新の研究結果を踏まえた学びを通じて、より深い理解を目指します。

15

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



授業紹介「土壌学」 理工学部 佐藤 伸二郎 教授



Point

- ・ 土壌の重要性
- ・ 土壌管理・改良方法
- ・ 植物成長

「土壌」は生物・大気・水圏・岩石などの生態環境と密接に関係していることから、様々な環境問題の中で重要な役割を果たしています。本授業では、その土壌の保全や改良と環境問題解決との関連性について広く学びます。

また土壌の物理・化学・生物的特性は、その地域や気候また年代によって大きく異なります。その違いを理解することで、作物を栽培するための最適な土壌の管理や改良方法を学ぶことができ、地域ごとに異なる「陸の豊かさ」を守ることにつながることを理解します。

授業紹介「植物生理生態学」 理工学部 久米川 宣一 准教授



Point

- ・ 大学内の植物を理解
- ・ キャンパスに植樹
- ・ 遺伝子組換え植物の是非

本授業では教室にて植物の概要や陸域生態系について学ぶほか、教員が学生を引率してキャンパス内を巡りながら、学内に絶滅危惧種が存在することや、里山保全の必要性とその課題点について学びます。また、中間レポート「大学内に植樹したい植物」にて、これまで学んだことをもとにして各自で提案書を作成するとともに、グループワークによる討論と発表会を行っています。優秀な提案においては、教員が苗や種子を調達し育成を行っています。

SDG 16

平和と公正を すべての人に

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

16 平和と公正を
すべての人に



ウクライナからの留学生の 歓迎会を開催



Point

- ・あらゆる人々の能力開発に貢献



一般財団法人パスウェイズ・ジャパン（PJ）による「日本・ウクライナ教育パスウェイズ」に参画している本学では、この秋学期（9月）より、ウクライナの危機が続く状況において日本で学業の継続を希望するウクライナ人留学生を5名受け入れています。留学生5名のうち3名が来日し、9月12日（月）に歓迎会および奨学生証書授与式を本学中央教育棟で開催しました。

最初に3名の留学生が挨拶し、「このような機会に心から感謝しています。創価大学の皆さんと家族のように仲良くなりたいです」、「ずっと日本に来たいと思っていたので嬉しいです」、「世界各国の留学生と共に、創価大学で学べるのが楽しみです」など喜びを語りました。続いて、田代康則理事長が奨学生証書を授与し、「創価大学はウクライナと長年交流があります。皆さんのことを心から歓迎します。ようこそ創価大学へ」と歓迎の言葉を述べました。最後に鈴木将史学長が「多様性あふれるキャンパスで多くの学友と語り合ってください、実りある学生生活をお送りください」とエールを送りました。



SDG 17

パートナーシップで 目標を達成しよう

持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



授業紹介「国際開発協力論」 経済学部 掛川三千代 准教授



Point

- ・ 途上国との開発協力
- ・ 社会課題解決
- ・ プロジェクトを企画・発表



本授業では「開発とは何か」「国際協力とは何か」という基本的な課題を考え、最終的に、途上国での協力プロジェクトを企画する力を養っていきます。プロジェクトの企画時、経済効果のみを考えるのではなく、環境や社会にどのように配慮するのも学びます。その後、学部を超えたグループで、課題解決を目指してプロジェクトを企画・発表し、皆で講評します。学生は協働する力やパートナーシップを推進する力を習得し、同時に持続可能な社会づくりの為には協働が必須であることも実体験を通して学んでいきます。

難民を対象とした推薦入学制度 更新の協定書調印式



Point

- ・ 開発途上国の人材育成
に貢献



国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所、国連UNHCR協会および本学による、難民を対象とする推薦入学制度「UNHCR難民高等教育プログラム（RHEP）」に関する協定の契約期間満了に伴う更新を目的とした協定書調印式が2022年4月19日（火）、本学中央教育棟で開催されました。本学では、2016年に本協定を締結し、2017年4月より毎年1名の学部生を奨学生として受け入れ、当該学生に対して原則4年間、学費を免除するほか、生活支援の奨学金の給付を行い、経済的な理由で日本の大学に通うことが困難な難民に対して大学教育の機会を提供してきました。

